

獨逸南航ハーベルモード船団入件

1884

軍務局

大正十四年十二月十日

大正十四年十二月十日

第一課

海軍省軍務局

水路部

御中

横須賀軍港防波堤燈臺ノ件

軍務一第五四〇號回覽書類（遞信省管船局長發海軍省軍務局長宛海第二六四二號）ニ對スル當部ノ意見左記ノ通

右回答ス

左記

横須賀軍港東北防波堤南東端燈臺ノ燈質カ第二海堡燈臺ノ燈質ト同一ナルコトハ航海者ヲシテ錯誤ヲ惹起セシムル機會ヲ與フルモノト認ム故ニ右二燈臺ノ何レカ

軍務第五四〇號

ノ二

海軍

1885

洋 11

一方ノ燈質ヲ變更シ群明暗白光ノ如キモノトナス必要アリ但シ東北防波堤南東端
燈臺ノ燈質ヲ變更スル場合ニハ成ルヘク閃光或ハ不動光トセサルヲ可ナリト思料
ス

(終)

美濃模造金葉群紙

1886



部

海第二六四二號

軍務局長

第一課長

局員

第二課長

遞信省管船局長

大正十四年十一月三十日

海軍省軍務局長殿

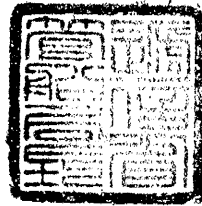
獨逸國發動機船「ハベラント」號橫須賀軍港東北

防波堤へ乗揚ケニ關スル調査報告送付ノ件

右ニ關シ横濱稅關長ヨリ報告有之候ニ付御參考迄別紙寫（圖面ハ海圖ト同一ニ付省略ス）及送付候

追テ本件ハ主トシテハベラント號船長ノ不注意ニ基因スルモノト認メラシ候モ同方面航行船舶ノ萬全ヲ期スル上ニ於テ横須賀軍港東北防波堤燈臺ノ燈質ヲ變更スル必要有之哉ニ被存候ニ付御考慮相煩度

軍務第五四〇號



遞信省

14.12.5 受接

1887

紙箋附

燈臺

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

14.12.5
受接

1887

海軍省

大正14年12月3日

水野 司令官

海軍省軍務局

燈台長より御意見を承り

之見ハ別ニ送付致ス

1888

遞信省

官第壹〇七九號

大正十四年十一月十三日

横濱税關長 神 鞭 常 孝

遞信大臣 安 達 謙 造 殿

獨逸國發動機船「ハベラント」號横須賀
軍港東北防波堤へ乗上ケノ件調査報告

獨逸國發動機船「ハベラント」號ハ大正十四年十月二十二日午前十
時五十分漢堡ヨリ各港經由來航シ浮標第八號ニ於テ雜貨物約二千四
百噸ヲ揚ケ十月二十四日午後九時廿二分全浮標ヨリ水先人山榑儀市
乗組ミ神戸港ニ向ケ當港ヲ出帆シテ午後九時四十三分港口ヲ通過シ
テ後水先人ヲ下船セシメ船長及三等運轉士船橋ニアリテ本船ヲ操縦
シ本牧浮標眞方位西ニ望ミ針路ヲ眞方位南ニ取り荒洲浮標（*Shinose*
Boje）ヲ距離四分ノ三裡ニ並航シテ午後十時十分眞針路ヲ南三度

1889 1890

東ニ取リ航行中右舷一點四分ノ一ニ當リ毎六秒ニ明滅スル白色燈火ヲ認メタルヲ以テ船長モ三等運轉士モ共ニ之ヲ第二海堡ノ燈火ナリト信シ又第三海堡燈火ト相似タル赤色燈火ヲモ認メタルヲ以テ前記白色燈火ヲ第二海堡燈火ナリト確信シテ先ツ針路ヲ之ニ眞向ニ變シ後午後十時廿五分ニ至リテ之ヨリ針路ヲ六度右舷ニ取リ進航シタルニ午後十時卅五分ニ至リ遂ニ横須賀軍港東北防波堤東燈臺ヨリ約千呎ノ所ニ於テ同防波堤ニ全速力ノ衝突シ船体ハ別紙圖面及「ロイドレコメンデーション」ノ如キ損害ヲ受タリサレド人命ニハ別ニ異狀ナカリキ而シテ船底損所ノ修理ニ要スル日數ハ四十餘日ニシテ工費十五萬圓ナリト云フ又防波堤ハ混凝土ヲ破壞セラレタリ翌廿五日午前九時頃本船代理店イリス商會ヨリ依頼ニヨリ當部曳船富士ヲ現場ニ派遣シタルモ容意ニ曳下シ得ヘカラサリシヲ以テ一先ツ歸來シタリ其後東京サルベージ會社ノ手ニヨリ曳下作業ヲ行ヒ三十日午前四時ニ離艦シ午後二時當浦ニ曳カレ歸リ積載貨物ヲ解取ノ上十一月二日横濱船渠ニ入渠シ其後ハ同船渠會社ニ於テ修繕スルコトナリタ

1890

遞信省

本船ハ西曆千九百廿一年漢堡ニ於テ建造セラレタル總噸數六千三百
 十四噸登簿噸數三千八百二十二噸ヲ有スル双螺旋發動機船ニシテ遭
 難當時ノ積載貨物ハ鐵材「アンモニヤ」肥料等三千六百四十噸ニシ
 テ之等貨物ノ損害ハ觀今調査中ナリ
 之ヲ要スルニ右乗上テ事件ノ原因ハ船長カ周圍ノ狀況ニ周到ナル注
 意ヲ拂ハサリシニ依ル事勿論ナリト雖モ別圖ノ如ク東京灣内燈臺ノ
 燈質等配置方ノ紛レ易キコトモ航海ノ安全ヲ期スヘキ所故ニアラス
 ト思料セラレ候
 別紙船長海難報告書、橫濱船渠會社船底損害書調査圖、東京灣内燈臺
 配置略圖「ロイドレコメンデーション」相添ヘ及報告候也

省略、送付シ来ラス

1891

一九二六年二月十九日附五號座礁ニ關スル貴翰拜承仕候貴翰ニ答エントスルニ方リ先ツ横須賀ニ於ケル海軍官憲ノ與エラレタル急速有效ナル救助ニ對シ再ヒ深厚ナル謝意ヲ表シ候貴翰ノ内容ニ關シテハ當社ハ左ノ如キ意見ヲ有シ居リ候

五號ノ座礁ハ當方ニ接受セル報告ト官憲ノ調査トヲ綜合スルニ公正ナル航海ノ判斷ヨリシテ船長ノ過失ニ歸スヘキナリ、然レトモ此過失ハ船長ノ責任ニ歸スヘキニ非スシテ横須賀地方ニ於ケル燈火ノ錯誤ニ起因スルモノノ如シ、出港後此地點ニ差シカカル時燈火ノ狀況ハ防波堤ノ最東端ニ在ル白色燈臺ニ點火シアリタリ然ルニ此燈火ハ其ノ附近ニ在ル第二海堡ノ白色燈火ト同様ニ認識スルヲ得ル狀況ニ在リシヲ以テ自然兩燈火ノ誤認ヲ生シ得ヘキニアリタリ

其他間違ノ生シ易キ原因トシテハ當時船長ノ使用セル海圖ハ英版第三五四八號ナリ該圖ニハ防波堤ノ總テノ燈臺ハ點火シアラサルモノトシテ抹消シアリタリ又在上海英國艦隊司令部ヨリ發行セル水路告示三四四五^二三^二ニモ點火シアラサル旨告示シアリ故ニ船長ハ防波堤ノ白色燈光ト第二海堡ノ白色燈光トヲ誤認シ得ル次第ナリシナリ又船長ハ白色燈光ノ傍ニ赤色燈光ヲ認メタルカ此燈光ハ第二海堡ノ後方ノ第三海堡ト思考セリ若シ防波堤西端ノ綠色燈臺點火シ居ラハ此二個ノ類似セル白色燈光ト赤色燈火トヲ誤認セサリシナルヘク從テ該綠色燈臺ノ消火ハ欄座ノ原因ニ屬スヘシ而シテ日本政府ハ其後本年右二個ノ接近セル白色燈火ヲ明瞭ナラシムル爲防波堤ノ白色燈臺ノ位置ヲ變更セラレ第二海堡ノ白色燈臺ト絶對ニ誤認セサル様設備セル事實ア

1893

海
軍

リ又右防波堤ハ欄座以前大震災ノ際破壊セルモノト認メラルルニ付本
船ノ破壊シタルモノト信セス仍テ賠償請求ニ應スル能ハサルナリ

(終)

1894

獨海普第五六號

第三號

七月十日

官

經理局長

第二號
獨自在勤帝國大使館附武官服部豐彦

加探知軍者經理局長

ハートマン

方取、保之、前電、通、知、日、海、解、決、時、白
其、本、主、中、依、失、賠、償、屋、為、為、子、廿、百、控、丹、仲、ハ、德、重
銀、行、收、万、替、之、了、送、付、故、ハ、了、左、封、印、條、由、蓋、お、お、お、
吉、本、所、交、得、之、重、ハ、送、付、書、字、ハ、為、多、ク、送、付、候、ハ、
右、如、層、久

42
如、本、所、交、得、之、重、ハ、送、付、書、字、ハ、為、多、ク、送、付、候、ハ、

如、本、所、交、得、之、重、ハ、送、付、書、字、ハ、為、多、ク、送、付、候、ハ、

印

1895

(甲)



独海軍三年三月三十一日

昭和三年三月二十日

独國在露帝國人伊藤鐵道株式會社

高橋會社社長 敬

ハルニシテ、高橋會社、陸軍省、防波提撥會社

首領、件之、海軍省、陸軍省、防波提撥會社、

別紙、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、

陸軍省、海軍省、陸軍省、海軍省、陸軍省、

陸軍省、海軍省、陸軍省、海軍省、陸軍省、

陸軍省、海軍省、陸軍省、海軍省、陸軍省、

陸軍省、海軍省、陸軍省、海軍省、陸軍省、

陸軍省、海軍省、陸軍省、海軍省、陸軍省、

(一)

1896

(U)
BURG-AMERIKA-LINIE

W/Rr.



Hamburg, den 12. Juli 1928.

Betrifft: M.S. "Havelland" Beschädigung des Wellenbrechers
bei Yokosuka.

Wir erlauben uns, höflichst Bezug zu nehmen auf die
Unterredung, die Herr C. Illies mit Herrn Kapitän Otzuka in
der obigen Angelegenheit hatte.

Wir sind bereit, in Erledigung dieser Sache den dortseits
geforderten Betrag von Yen 33.780,-- zu bezahlen und haben
unsere Finanz-Abteilung veranlasst, einen Scheck über genante
Summe direkt nach dort zu senden.

Wir gestatten uns, ein Quittungsformular beizulegen, mit
der Bitte, dieses Formular nach Eingang des Betrages unter-
schrieben an uns zurückgelangen zu lassen.

Mit vorzüglicher Hochachtung

HAMBURG- AMERIKA LINIE

A.H.

Dem Herrn Japanischen Marine-Attache,
zu Händen von Herrn Kapitän Otzuka,

B e r l i n . W .

Bayerischer Platz 13/14.

1897

軍務

紙 箋 符

昭和三年七月十二日

經理局

建築局

市 中

海軍省軍務局

(更急復旧要員)

本件解決賠償金受納確定上ハ賠償
償性原上ホ歲入財源ヲ以テ核實復旧費ヲ
要求スルハ性質上モトモテモラルニ付可然取
外ニ交

附 箋 紙

昭和 年 月 日

海軍省經理局

(捺印)

建築局 市 中

本報印定非其必要ナルハハ四半分迄ハ
概算トシテ要求スベキニ付 事項書
提出可也

次官

獨監會第九四號

昭和三年七月廿一日 在伯林

經理局長

第二課長

元松

大車小

五月申候

第一課長

續野分長

櫻

第三課長

山本座雄三

櫻

首取、野分長、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

青地長、大車小、櫻、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

イリス、大車小、櫻、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

容易、大車小、櫻、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

主、大車小、櫻、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

経、大車小、櫻、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

旨申、大車小、櫻、山本座雄三、櫻、大車小、五月申候、昭和三十二年七月廿一日、在伯林、電報、

受接
3.7.13
局築建

3.7.11
月日

1899

經理局長

軍務局長

昭和

三年六月

月 日

午前

時

分

14

局發

第一課長

元樟五日

午前

時

分

14

著

第二課長

發信者

服部

時

分

14

著

受信者 海軍省長

電報譯 (暗平)

ハアトラント号(件)年争解決ノ及込委物文

第一課長

局員

第二課長

皇

海軍省

海軍省

模造平葉十一百第紙

經理 3.6.22 受接

3.6.05

1901

海軍

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS. (Delivery Form)

Station	Office No. 2	Address
Received Time	Date 22-6-28 19 28	Idachinoki
By	Do	Tokio
Class	Original Office Berlinsehoreberg	Remarks
No. 579	Words 9-8	
Date 21-6-28	Time 18.15 m	
<p>Idavellandgoonoken buji kairatsuno mikomi isaifumi hattori</p>		

伊理斯株式會社取締役
イリス會圖畫部長

榎田麟一

1903

方ノ回答ナク代理店ヲ介シ督徒スルモ一向ニ
要領ヲ得ズ候ニ付テハ貴官ヨリ一應直接
交渉方相煩度

別紙丙ニ對スル先

1905

昭和二年四月十日 海軍省經理局



本日のイリク商會様日氏
馬一万円奉子漢シヨキ上
申立アリタル付 独心た使給
武有一回各ヲ得午行下ニ
ス 奉旨 回答ス

東京市丸ノ内 有樂館
伊理斯株式會社・イリス商會
電話丸ノ内(8) 〇〇三三六號 〇〇三三八號
自宅 東京市外目黒町上目黒氷川六二七
電話青山(36) 五二七一 番

1904

經物第二七五號

昭和三年三月十日

海軍省經理局

獨逸國駐在大使館附武官殿

ハイベルランド號、座礁ニヨル

防波堤損害ノ件

首題ノ件ニ関シ一昨年來別紙甲乙丙、如ク
當地代理店イリス商會ヲ通ジ漢堡亞米利
加汽船會社ト交渉中、處別紙丙ニ對スル先
方ノ回答ナク代理店ヲ介シ督促スルモ一向ニ
要領ヲ得ズ候ニ付テハ貴官ヨリ一應直接
交渉方相煩度

1905

右照會ス

追テ本件ニ関シ先方ニ於テ責任ナキコトヲ主張シ
賠償ニ應セザルトキハ訴訟ヲ提起スルコトニ外務
省トモ打合セ濟ニ有之候

別紙 甲、乙、丙、添

(終)

1906

經物第九二六號

大正十五年二月十九日

海軍省 經理局

H. A. L. 代理店

イリス商會宛

ハーブランド號座礁ニヨル防波堤破損々害件

客年十月二十五日午後十時二十四分獨逸國 H. A. L. 會社船ハーブランド號橫須賀軍港防波堤ニ衝突擱座シテ今防波堤ヲ破壊シ別紙調書、通金參萬參千七百八拾圓ノ損害ヲ加エタリ。當夜ハ天候平隱ニシテ燈火ノ視認ニ毫モ支障ナク殊ニ橫須賀市街及碇泊艦船ノ燈火ヲ近ク望見シ得ル位置ニ於テ擱座セルハ明カニ操船者ノ不注意ニ基因スルモノナルヲ以テ該損害額

1907

賠償相成度

右請求ス

追而摺座後ノ保安並ニ引卸作業援助等、為メ横須賀鎮守府ニ於テ要シタル諸経費ハ一切請求セサルモノ付為念申添候

(別紙一通添)

(終)

1908

ハーブランド號衝突破壊、防波堤復旧費調
 破壊箇所ハ防波堤、東端桂燈ヨリ西方約二百二十米
 ノ点ニシテ約五十米、長サニ亘リ深サ約五米ニ及ブテ
 衝突前ノ状態ニ復スルガ爲メ尤記、經費ヲ要ス

一金參萬參千七百八拾圓

内訳

名稱	數量	金額	記事
墜落方塊整理	約一〇八	六一五四〇〇	
方塊補足	六〇	一一二四六〇〇	
移動方塊積直	約三〇	一一二九〇〇〇	
墜落方塊疊積	約一〇八	六一四〇〇〇	
場所詰ゴザート	約一四四	五二七八四〇	

1909

防 護 支 塊 置 直	雜 費	合 計
二 五		
三 三 四 〇 〇 〇	三 三 三 七 六 〇	三 三 七 八 〇 〇 〇

(終)

1910

別紙
乙

千九百二十六年十月二十一日

漢堡亞米利加汽船會社

海軍省經理局宛

一九二六年二月十九日附H號座礁ニ関スル貴翰拜
表仕候貴翰ニ答フントスルニ方リ先ツ横須賀ニ
於ケル海軍官憲ノ與エラレタル急速有効ナル救助
ニ對シ雨ヒ深厚ナル謝意ヲ表シ候貴翰ノ内容ニ
關シテハ當社ハ左ノ如キ意見ヲ有シ居リ候
H號ノ座礁ハ當方ニ接セル報告ト官憲ノ調査
トヲ綜合スルニ公正ナル航海ノ判断ヨリシテ船長ノ
過失ニ歸スヘキナリ。然レトモ此過失ハ船長ノ責任

1911

ニ歸スヘキニ非スシテ横須賀地方ニ於ケル燈火ノ錯
誤ニ起因スルモノ如シ。出港後此地點ニ差シカカル時
燈火ノ狀況ハ防波堤ノ最東端ニ在ル白色燈臺ニ
點火シアリタリ然ルニ此燈火ハ其ノ附近ニ在ル第ニ
海堡ノ白色燈火ト同様ニ認識スルヲ得ル狀況ニ在
リシヲ以テ自然兩燈火ノ誤認ヲ生シ得ヘキアリタリ
其他間違ノ生シ易キ原因トシテハ當時船長ノ使用
セル海圖ハ英版第三五四號ナリ該圖ニハ防波
堤ノ總テノ燈臺ハ點火シアラサルモノトシテ抹消シア
リタリ又在上海英國艦隊司令部ヨリ發行セル水路
告示三四四五ニ三ニモ點火シアラサル旨告示シアリ故ニ
船長ハ防波堤ノ白色燈光ト第ニ海堡ノ白色燈光
トヲ誤認シ得ル次第ナリシナリ

1912

又船長ハ白色燈光ノ傍ニ赤色燈光ヲ認メタルカ此燈光ハ第二海堡ノ後方ノ第三海堡ト思考セリ若シ防波堤西端ノ綠色燈臺點火ニ居ラハ此ニ個ノ類似セル白色燈光ト赤色燈火トヲ誤認セサリシナルヘク從テ該綠色燈臺ノ消火ハ擱座ノ原因ニ屬スヘシ而シテ日本政府ハ其後本年右ニ個ノ接近セル白色燈火ヲ明瞭ナラシムル爲防波堤ノ白色燈臺ノ位置ヲ変更セラレ第二海堡ノ白色燈臺ト絕對ニ誤認セサル様設備セル事實アリ又右防波堤ハ擱座以前大震災ノ際破壊セルモノト認メラルルニ付本船ノ破壊シタルモノト信セス仍テ賠償請求ニ應スル能ハサルナリ。

(終)

1913

別紙

丙

經物第二九號

昭和二年三月十一日

海軍省 經理局

漢堡亞米利加汽船會社

御中

ハーベルランド號、座礁ニヨル防波

堤損害ノ件

本件ニ関スル一九二六年十月二十一日附貴社回答
受領候處右貴見ニ對シテハ諸種ノ點ニ於テ
左記ノ通反對ノ論據ヲ有スルモノニシテ余リ船
長ノ不注意ニヨル過失ニ外ナラザルヲ以テ賠償相
成度候

1914

左記

一、防波堤最東端ノ白色燈臺ト第二海堡ノ燈臺トハ燈質相等シカリシヲ以テ誤認シ得ヘシト會社ハ主張スルモ當日午後十時三十分燈光ヲ認メシ時、月号推定位置ヨリノ方位ハ第一海堡燈光「南三十五度東」防波堤最東端燈光「南二十五度西」ニシテ此等兩燈光ノ方位、開キハ約六十度ニシテタトヒ燈質相等シトスルモ此、如キ甚シキ誤認ハ全ク船長ノ不注意ニ因ルモノト云フ、外ナシ

二、船長ノ使用セル英版第三五四八號ノ海圖及在上海英國艦隊司令部發行ノ水路告示共ニ防波堤ノ燈火ハ點火シアラサルモノトナシアリシニヨ

1915

リ誤認セリト會社ハ主張スルモ日本政府ハ一九二
五年九月十一日逋信省告示第一三五四號（全
日帝國官報掲載）今月十二日水路告示第七八五
項（今日帝國官報掲載）及帝國水路部發行水
路告示ヲ以テ防波堤各燈光ハ一九二五年九月
十日ヨリ今年十月十日迄休燈スル旨ヲ一般ニ告示
シタル外該燈火、點火シアラサルコトニ關聯スル
何等ノ告示ヲナセル事實ナシ隨テ常ニ點火シア
ルコトハ明カナルヲ以テ船長ガ訂正不充分、海圖及告
示ニ信賴セシモノニシテ此過誤ノ責任ヲ當方ニ嫁セラ、ノ
理由ナシ

三、船長ハ白色燈光ノ傍ニ赤色燈光ヲ認メ之ヲ第三海
堡ト思考セリ若シ防波堤ノ綠色燈光點火シ居ラ

1916

ハ前ニ燈光ヲ誤認セサリシナルヘシト主張スルモ已ニ第一
ニ於テ速ヘタルカ如ク實ニ六十度ノ開キヲ有スル兩個ノ白
色燈光ヲ誤認セルカ如キ注意ノ程度ヲ以テスレバ全様
ノ開キヲ有スル兩個ノ赤色燈火ノ誤認ヲナスコトハ亦當
然ナルヘシ加之兩赤色燈火ハ其明暗間隔一ハ四秒
ニシテ他ハ六秒ナルヲ以テ注意周到慎重ナルヘキ航海
者ハ必スヤ其差異ヲ認識スヘキモノニシテ當時明暗ヲ調
製中ナリシ綠色燈火ノ点否ニ不拘船長ハ自己ノ重
大ナル過失ヨリ誤認セルモノニ外ナラストス

四 日本政府カ前記ニ個ノ白色燈光ノ區別ヲ明瞭ナ
ラシムル爲大正五年防波堤東端ノ白色燈光ノ燈
質ヲ變更セルハ事實ナルモ夫ハ實ニ本件船長
ノ如キ慎重ヲ缺ク航海者アルニ鑑ミテ行ヘル

1917

好意的施設ニ外ナラスシテ本燈光設備以來長年
月ノ間一回モ今回ノ如キ誤認過失ヲ生シタルコトナ
キニ見テモ明カナリ

五、防波堤ハ楢坐以前大震災ノ際破壊セルモノト認
メラル、ニヨリHノ破壊シタルモノト信セストイフモ大
震災ノ為メハ一般的ニ若干沈降セルノミニシテ部
分的ニ破壊セルモノニハアラス破壊ノ現場ヲ見ル
者ハ一見忽チ其破壊カ楢坐ニ原因スルコトヲ視認
シ得ヘシ而シテ今回ノ賠償要求額ハH号楢坐
直前ノ状態ニ復旧スルニ要スル所要額換言スレバ
楢坐ヲクシテ震災前ノ状態ニ復スルニ要スル経費
ニ楢坐ノ為更ニ増加シテ要スルニ到レル額ノミニ限レル
モノナリトス

1918

六、前諸項ハ貴社ノ主張スル處ヲ反駁セルニ過キサルモ更ニ海圖ヲ開イテ當時ノ狀況ヲ相像セヨ楯岬ノ當夜ハ天候平隱ニシテ燈火ノ視認ニ毫モ支障ナク而シテ防波堤内ニハ帝國軍艦長門金剛以下數隻ノ巨艦幾多ノ燈光ヲ點シテ在泊セルアリ其左後部ニハ横須賀市街ノ無数ノ燈光ヲモ認識シ得タルヘキヲ以テ若シ防波堤ノ燈光ヲ海堡ノ燈光ト誤認セシナラハ同時ニ海堡ノ燈光ノ南方ニ多数ノ艦船碇泊シ其ノ左ニ大市街ノ存在スルコトナルヲ以テ直ニ其過誤ヲ發見シ得ヘク更ニ船長ガ當夜横濱港口通過後ノ經過時間ヨリスルモ相當慎重ニ考慮シ得ル余裕アルニ不拘俄カニ常航路ヨリ殆ニト直角ニ変針シテ

1919

誤認セル燈光ニ向ケ向針セルカ如キハ狼狽ノ状明
瞭ニシテイツレノ點ヨリスルモ船長ノ責任ニ歸スヘ
キ其重大ナル過失ニ起因スルハ明カナルヲ以テ貴
社ハ當然賠償ノ責任アルモノトス

(終)

1920

經理局長

軍務局長

法務局長

第二課長

第一課長

昭和三年三月十日

經理局

第一課長 伊藤 官房
第二課長 藤田 武官宛

首席職員

ブルランド 局員 座礁 三三

首題 沖ノ國シ 以下年未別紙甲乙丙ノ如ク各地代理

店イリス商會ヲ通シ 漢堡 亞末利 汽船會社ト交渉中ノ

処別紙丙ニ對スル先方ノ 意見 代理店ヨリ

督促スルニ 向ニ 要領ヲ 得申シ 候ニ 付テ 貴官ヨリ 直接

沖ノ國 交渉方 相續度

本館 沖ノ國シ 先方ニ 於テ 書信ヲ キストウ 主張シ 賠償ニ 應

知サルト 中ニ 訴訟ヲ 提起 スルトニ 外務省ヨリ 打合ヒ 済

海軍 軍務 第二七五號

海

軍

模造半葉十三行弊紙

法務局 3.2.14 接受

3.2.14 日

1921

經理局

其トハ燈債相等シカリシテ以テ謀認シ得ヘシト
會社ハ主張スルモ出由自午後十時二十分燈光ヲ
認ナレ時ノH号推定位置ヨリノ方位ハ第二海
堡燈光「南三十五度東」防波堤最東端燈
光「南三十五度東」ニシテ此等兩燈光ノ方位ノ南
キハ約六十度ニシテタトヒ燈債相等シトスルモ此
如キ甚ダシキ謀認ハ全ク船長ノ不注意ニ因ル
モノト云フノ外ナシ

二 船長ノ使用セシ英收第三五四號ノ海圖及
在上海英國船隊司令却發行ノ水路告示共
ニ防波堤ノ燈火ハ點火シアラサルモノトナシアリニヨリ
謀認セリト會社ハ主張スルモ日本政府ハ一九二五
年九月十一日第信省告示第一三五四號（今日帝

1924

國官報掲載) 今月十二日水路告示第七八五項
 (今日帝國國官報掲載) 及帝國海軍水路部發
 行水路告示ヲ以テ防波堤右燈光ハ一九二五年九
 月十日ヨリ今年十月十日迄休燈スル旨ヲ一般ニ告
 示シタル外該燈火ノ點火ニアラサルコトニ關聯スル何
 等ノ告示ヲナセんとせん事無クナシ隨テ常ニ點火ニアルコト
 ハ明カナルヲ以テ船長カ訂正不充分ノ海圖及告示ニ
 信賴セシモノニシテ此過誤ノ責任ヲ當方ニ嫁セラル、
 ノ理由ナシ
 三、船長ハ白色燈光ノ傍ニ赤色燈光ヲ認メ之ヲ第三
 海堡ト思考セリ若シ防波堤ノ綠色燈光點火シヤ
 居ラハ前ニ燈光ヲ誤認セサリシナルヘシト主張スルモ已
 ニ第一ニ於テ述ヘタルカ如ク實ニ此ノ千度ノ開キヲ有

海軍

1925

一四秒ニテ

他六秒

十六

ルニテ

スル兩個ノ白色燈光ヲ誤認セカ如キ注意ノ程
 度ヲ以テスレハ合様ノ際キチ有スル兩個ノ赤色燈
 火ノ誤認ヲナストハ亦當然ナルヘシ加之該兩赤色
 燈火ハ其明暗間隔一八四秒ニシテ他ハ六秒ナルヲ
 以テ注意周到慎重ナルヘキ航海者ハ必スヤ其
 差異ヲ認識スヘキモノニシテ當時明暗調製中
 ナリシ綠色燈火ノ点否ニ不拘船長ハ自己ノ重大
 ナル過失ニヨリ誤認せんモノニ外ナラストス

四 日本政存カ前記二個ノ白色燈光ノ區別ヲ明瞭
 ナラシムル為大正十五年階彼提東端ノ白色燈光
 ノ燈質ヲ変更セルハ事實ナルモ夫ハ寧ろ事件船
 長ノ如キ慎重ヲ缺ク航海者アルニ鑑ミテ行ヘン
 好意的施設ニ外ナラスシテ本燈光設備以來

洋 眞

1926

長年月ノ間一回モ今回ノ如キ誤認過失ヲ生シ
タルコトナキニ見テモ明カナリ

五 防波堤ハ概坐以前大震災ノ際破壊せんモト認メ

ラルニヨリトハ一破壊シタルモト信セストイフモ大震災

ノ為ナニハ一般のニ若干沈降せんノニシテ却糸的ニ破

壊せんモノニアラス破壊ノ現場ヲ見ル者ハ一見勿心ナ

其破壊カ概坐ニ原因スルコトヲ視認シ得ヘシ而シテ

今回ノ賠償要求額ハト号概坐直前ノ状態ニ

復舊スルニ要スル所ノ要額換言スルハ概坐^{概坐ノ}ニ

震災以前ノ状態ニ復スル^{概坐ノ}経費ニ要スル^{概坐ノ}増

加シテ要スルニ到レル額ノニ之限レルモノナリトス

六 前諸項ハ貴社ノ主張スル處ヲ及取せんニヨキサルモ

更ニ海圍ヲ開イテ當時ノ状況ヲ想像セヨ概坐ノ

1927

當夜ハ天候平穩ニシテ燈火ノ視認ニ毫モ支障
 ナク而シテ防波堤内ニハ帝國軍艦長門全副
 以下數隻ノ巨艦數多ノ燈光ヲ點シテ在泊セ
 アリ其左後部ニハ横須賀市街ノ漁船ノ燈光ヲ
 モ認識シ得タルヘキヲ以テ若シ防波堤ノ燈光ヲ海
 堡ノ燈光ト誤認セシナラハ同時ニ海堡ノ燈光ノ南
 方ニ多數ノ船隻碇泊シ其ノ左ニ大市街ノ存在ス
 ルコトトナルヲ以テ直ニ其過誤ヲ發見シ得ヘク更ニ
 船長カ當夜横濱口通過後ノ經過時間ヨリスル
 モ相當慎重ニ考慮シ得ル余裕アルニ不拘俄カニ
 常航路ヨリ強ント直角ニ變針シテ誤認セル燈
 光ニ向ケ向針セルカ如キハ狼狽ノ状明瞭ニシテイ
 シノ點ヨリスルモ船長ノ責任ニ歸スヘキ其ノ重大ナル過

失ニ起因スルハ明カナルヲ以テ貴社ハ当然賠償ノ
責任アルモノトス

英商全泰十三行紙

海
軍

1929

